

グローバルサウスビジネス 共創事業の報告



滋賀県商工労働部 商工政策課
ビジネス振興・海外展開支援係

■ 背景・滋賀県の強み：

- 2024年12月に「世界湖沼の日（8月27日）」が国連で制定。この日は、滋賀県が1984年に第1回世界湖沼会議を開催した開会日に由来。
- 「世界湖沼の日」の制定は滋賀県がこれまで琵琶湖の環境保全に向けて官民で連携しながら社会的課題に取り組んできたことの一つの成果と考える。
- 滋賀県および滋賀県内企業には、水質・生態系保全管理、水資源確保、排水・汚泥処理など、湖沼に関わる多くの社会的課題に対応する技術・知見が蓄積。これらは世界各国、とりわけグローバルサウス諸国の持続可能な開発において大いに活かせる。

■ グローバルサウス諸国の湖沼課題

共通課題

- 水質・生態系の保全
- 水資源の確保
- 排水・汚泥処理
- 土砂流入・洪水

琵琶湖での対応経験

- 官民連携による保全
- 環境技術の開発
- 地域経済の両立
- 継続的な改善体制

業務の概要

🎯 事業目的

① 課題発掘

グローバルサウス諸国の湖沼地域における社会的課題を調査・発掘

② プロジェクト組成

琵琶湖保全での技術・知見を、多岐にわたる課題解決プロジェクトを検討

③ 企業支援

滋賀県および県内企業が発掘課題の解決に貢献する形での海外展開を促進

④ 国際貢献

持続可能な開発に繋がる国際アジェンダ（SDGs）の達成に貢献

📄 業務の流れ

事前調査
(課題発掘)

対象国・
地域選定

企業ヒアリング
(ニーズ発掘)

現地調査
(実地確認)

プロジェクト
素案検討

対象国選定の調査方法：3段階スクリーニング

1次

グローバルサウス諸国の抽出

世界人口上位20ヶ国から「グローバルサウス諸国」と考えられる国を抽出。
結果：15ヶ国（ベトナムは他事業で対象外）→ 14ヶ国に

2次

市場成長性による評価

2030年の人口・GDP予測増加率から将来の市場規模と成長性を評価。
増加率がマイナスのタイを対象外に→ 13ヶ国

3次

総合評価指標による最終選定

GDP規模、経済成長率、安全性、日本との関係など10項目を得点化し、上位3ヶ国を最終選定

■ 評価指標（抜粋）

経済・市場指標

- ✓ 現在のGDP規模
- ✓ 年間GDP成長率
- ✓ 海外からの投資受入額

リスク・ビジネス環境

- ✓ 渡航安全性
- ✓ カントリーリスク
- ✓ 人間開発指数

日本との関係

- ✓ 日本との経済連携協定
- ✓ 日本企業有望度
- ✓ JCMパートナー国

社会開発指標

- ✓ 安全な水利用可能人口割合
- ✓ 2030年人口予測

対象国・地域の選定結果

🏆 第1位

インドネシア

- + 世界4位の人口規模
- + 大きな市場成長性
- + 日本企業が進出しやすい環境
- + 国家優先湖沼が存在
- + 安全性・関係性で優位

🏆 第2位

インド

- + 世界最高の人口規模
- + GDP規模が最大
- + 9つのラムサールサイト
- + 強い市場ポテンシャル
- ▲ 安全面・人間開発指数で課題

🏆 第3位

メキシコ

- + GDP規模が3番目に大
- + 高い経済成長性
- + 日本との関係が良好
- + ラムサール登録湿地群
- ▲ 安全面がマイナス要因

地域選定に係る3段階スクリーニング ※2次、3次の評価指標は国の特性に応じて調整

- <1次> 州別GDP・人口、優先湖沼・ラムサールサイトの有無
- <2次> GDP成長率、経済特区の有無、アクセス性、教育水準、第二次産業の規模、琵琶湖との条件の類似性 等
- <3次> 海外安全情報、人口構成、賃金、投資・開発状況、周辺インフラの有無、滋賀県産業の強みとの関連 等

① **中部ジャワ州**

② 北スマトラ州

- 滋賀県企業の進出のしやすさ、社会課題解決のインパクトの大きさを示す関係指標において「**中部ジャワ州**」に対する優位性を確認。
- 現地政府機関との意見交換や国家優先湖沼「ラワペニン湖」の視察など具体のプロジェクト組成に向けた現地調査を実施。

① **ウッタラプラデシュ州**

② **タミルナドゥ州**

③ **カルナータカ州**

- 上記3州に対して、それぞれ特性はあるものの、**ほぼ同水準での優位性を確認**。
- **2026年度に追加での机上調査および現地調査**を踏まえて、ターゲット州の選定を予定。

① **メキシコ州**

② ベラクルス州

③ プエブラ州

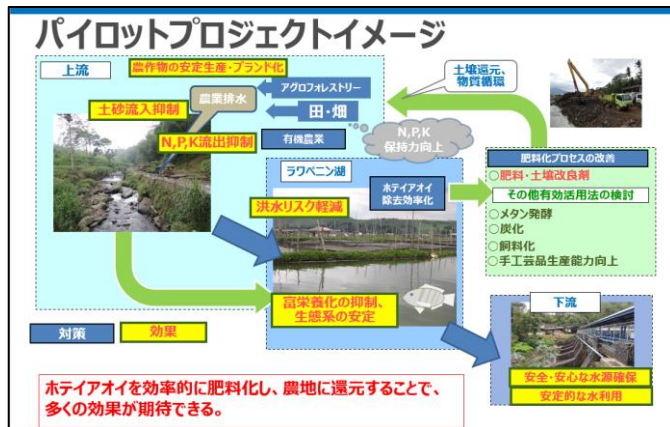
- ラムサール条約に登録された「シエネガス・テ・レルマ湿地群」があり、湿地周辺農地からの農薬流入等による湿地生態系への影響などの社会課題を有する「メキシコ州」に優位性を確認。

◇ 中部ジャワ州における課題例： ラワペニン湖

水質汚濁（水草の繁茂、生活排水流入）、土砂堆積、廃棄物投棄、外来種侵入、生態系破壊などの深刻な問題が複合的に発生。

【主要課題】

- ✓ 水質悪化（ホテイアオイの異常繁殖、生活排水）
- ✓ 廃棄物処理（不法投棄）
- ✓ 土砂堆積、漁業資源の減少



◆ ビジネス機会： 課題解決型アプローチ

これらの課題に対して、以下のようなアプローチを想定。

- **水質浄化技術：**
排水処理、水質改善、ホテイアオイの有効活用
- **廃棄物管理：**
資源化、リサイクル、効率的な収集システム
- **環境再生：**
植林、生態系保全、持続可能な観光開発
- **地域経済活性化：**
養殖業の効率化、地域製品のブランド化